

## 平成 30 年度 施策評価表

施策	2001	環境保全の推進	施策担当部	市民環境部	部長	杉野 幸夫
			施策担当課	環境保全課	課長	大久保 哲郎
<b>施策の方針</b> 地球温暖化対策を推進するとともに、豊かな自然環境の保全や自然を活かした環境教育に努める。						

**【DO（実施）】**  
基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	H31目標値	H32目標値	H29年度	
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	H31実績値	H32実績値	達成率	進捗率
① 市の公共施設における温室効果ガス年間排出量	t - co2	32,344	32,021 28,904	31,698 27,005	31,375	31,052	30,727	117.4%	113.8%
② 大村湾のCOD値	mg/L	2.5	2.0 2.1	2.0 2.0	2.0	2.0	2.0	100.0%	100.0%
③ 環境講座・イベントへの年間参加者数	人	1,159	1,200 594	1,200 827	1,200	1,200	1,200	68.9%	68.9%
④									
⑤									

<b>施策達成状況の説明</b>	
①	市公共施設における温室効果ガス総排出量は、前年度比6.6%の減、基準年度（平成26年度）比16.5%の大幅減となっており、目標を達成した。この主な理由は総排出量の5割以上を占める電力の排出係数が前年度比9.2%の減、基準年度比24.6%の大幅減となったためである（H26：0.613、H28：0.509、H29：0.462）。ただし、電気の使用量自体は基準年度比0.04%の減であるものの、前年度比1.7%の増となっている。
②	大村湾のCOD（化学的酸素要求量）値は、湾全体平均値は2.0mg/Lで目標値2.0mg/Lを達成した。観測地点別にみると、湾沖合においては低い値（1.6mg/L～1.9mg/L）であったが、沿岸近くにおいては2.0mg/L以上の地点が多く、特に海水の流入出がない湾奥では高い値（2.5mg/L）であった。
③	環境講座・イベントの参加者（大村湾ウォッチング、リバーウォッチング、環境出前講座、もったいない抽選会）は、悪天候の為、一部中止したのもあったが、平成29年度より実施した環境保健研究センターでの環境講座により大幅に増加した（前年度比233人増、39.2%増）。

**施策経費**

（単位：千円）		H29年度 決算	H30年度 予算	H31年度 見込	特記事項
内訳	事業費	22,673	23,619	4,161	
	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	143	1,146	1,152	
	地方債	16,700	17,200	0	
	その他	0	0	0	
	一般財源	5,830	5,273	3,009	
	人件費	14,653	14,930	-	
フルコスト	37,326	38,549	-		

**施策の概要**

200101	地球温暖化対策の推進	市民・事業者・行政が一体となって地球温暖化対策を推進するため、家庭生活や企業活動における省エネルギー活動の普及啓発や建築物の省エネルギー化を促進します。 また、公共施設については、太陽光などを活用した再生可能エネルギーを今後も率先して導入するとともに、市民や事業者に対し、普及啓発を行います。
200102	豊かな自然環境の保全	大村湾や多良山系などの豊かな自然環境を守るため、水源かん養機能や土砂災害防止機能などを持つ森林・農地の保全を推進します。 また、県、大村湾流域市町等で組織する「大村湾をきれいにする会」との連携を図りながら、大村湾の環境保全に努めます。
200103	環境保全意識の醸成	市民や事業者が環境についての理解を深め、自発的な環境保全活動の実践につながるよう、啓発を行うとともに、大村湾や多良山系など、自然環境を活かした環境学習の充実を図ります。

**【CHECK (評価) 施策担当部長】**

<p>施策を達成する上での問題点・課題</p>	<p>(地球温暖化の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市公共施設における温室効果ガスの排出量は、今後、ボート事業のナイター化、中学校給食センターや県立・市立一体型図書館の新築など、大型施設等による電気の使用量の大幅増が見込まれ、増加する見込みである。各施設とも省エネに努めているが、再生可能エネルギーの今後のさらなる導入が困難な状況にある。また、市職員のノーマイカーデー実施率の低下などにみられるように、職員の意識向上の拡大が難しい状況にある。</li> </ul> <p>(豊かな自然環境の保全)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大村湾の浄化対策は、県が中心となって様々な施策を推進しているが、現状は、栄養塩の蓄積による底質の悪化、貧酸素水塊の発生、浅場の減少、海洋生物の生息環境の悪化等により、自浄能力が衰退傾向にある。</li> </ul> <p>(環境保全意識の醸成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生については、各学校で年間の授業計画を年度当初に決定しているため、環境学習を新たに設けることは学校とのニーズが一致しない限り、限られた授業数の中で取り組むことは難しい。大村湾ウォッチング等は、屋外で行うイベントのため天候に左右される。</li> </ul>
-------------------------	---

**【CHECK (評価) 評価調整委員会】**

<p>(今年度は評価調整委員会による評価の対象外)</p>	
-------------------------------	--

**【ACTION (改善・改革)】**

<p>問題点・課題を踏まえた施策構成事務事業の改善・改革や新規事業についての考え方</p>	<p>(地球温暖化の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員を対象としたエコドライブの研修、環境保全意識向上を目的とした新人研修などを実施し、環境問題について意識向上を図る。</li> </ul> <p>(豊かな自然環境の保全)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や沿岸5市5町等で構成された大村湾をきれいにする会（会長：大村市長）が、環境省、農林水産省、国土交通省に対し、貧酸素水塊の改善、浅場の造成、海洋生物の生息環境の改善等の具体的な対策について要望を行う。</li> </ul> <p>(環境保全意識の醸成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会等と連携をとり、対象となる小学生によりわかりやすく、内容を深めた環境学習を行う。</li> <li>・県・環境保健研究センターと協働で行う環境イベントを開催する。</li> </ul>
---	---

**平成31年度新規事業**

	事業名（仮称）	担当課	H31年度見込	対象・事業概要など
			事業費（千円）	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	